

令和5年度「みそのもくもく DAY! in アルヴェ」学生の振り返り
(学びのねらいとしている保護者との関わりについて抜粋しました)

○今回は土曜日の午前中の開催だったので、普段来られないような方も多く来場されていた。お話ししてみると聖園短大の卒業生であるというお母さんもおられた。「今までみそのもくもくを知らなかった」という方も何人もいて、アルヴェの子ども未来センターでパンフレットを見た、インスタグラムで知った、という声があった。小学生も久しぶりのもくもくに喜んで、1時間もドミノを学生と取り組んでいた子どももいた。一方で「学生から話しかけてもらえなかった」という声もあり、全員にまんべんなく関わる難しさを感じた。

○乳児コーナーでは、普段よりもたくさんの乳児が来ており、担当になったときには、いつもより積極的に挨拶してみると、はじめは入りずらそうにしている方も、笑顔で入ってきてくれる姿がありました。私は、最初は少し緊張してしまいましたが、この体験を通して、いつでも笑顔でいるだけでなく、まずは挨拶をして入りやすい雰囲気や少しの声かけをすることも大切であり、当たり前ではあるが今まで出来ていなかったな……と考えました。端に座っていたお母さんに声を掛けてみると、「5ヶ月なので、少し来るのが早かったかなって思ってた……」と少し遠慮したような姿がありました。その後ももくもくについてお話することができて、会話を通して保護者の気持ちや小さな迷い、もくもくへの感心などについて知ることが出来て、この活動の良さや大切さも強く感じるとともに、保護者とのコミュニケーションをもっと大切にしたいと感じました。